

平成26年度事業計画（案）

《 基本方針 》

平成25年1月から12月までの1年間に五島市を訪れた入り込み観光客数は、
198,444人（前年195,424人）と推計され、前年比 3,020人増
（五島市観光客入り込み調査）

全国的にアベノミクスの経済政策の効果が少しずつではあるが上向きだと、紙面は飾るが、この離島五島市においては経済の中心地である商店街は今だシャッターが下りたままの状態が続いている。こんな中本当に観光客への「おもてなし」が出来るのだろうか、地元が元気を出さなければ心からの「おもてなし」は出来ないと思われる。

本年度より五島市が九州の大都市である福岡と日本の首都東京に事務所を構え、五島市の売り込みに本格的に乗り出す。当協会としてもこの2か所を拠点に今まで以上に、営業に力を入れ易くなった、これは大いに期待が持てると思われる。

非常に厳しい社会情勢の中で、五島観光の魅力アップと販売戦略について「教会・椿・海」の三本柱を主に観光関係団体と意志統一を図りながら事業の方向を決定して行く必要があります。

教会については、世界遺産登録への更なる機運向上が求められ、椿については2020年国際椿大会が五島市に決定しており、また、海については水イカのキャンペーンなど飲食店を巻き込んで賑わいを見せた。

地域振興の底上げとして開催されているトライアスロン大会・夕やけマラソン・五島椿まつりなどの三大イベントは地元の厚い歓迎が参加者のリピーター化に繋がっていると思われ。特に夕やけマラソンにおいては、絶対的に宿が不足し公的機関の施設の解放が求められる。

「継続は力なり」、イベント内容の見直しも図りつつ、参加者が一人でも増えるよう努力をして行く。

以上を基本姿勢とし、行政や観光関係団体、NPO法人と連携を密にし、島内経済の活性化に貢献していきたい。

《 事業計画 》

1. 観光客誘致活動

- (1) 宣伝派遣（行政機関、各団体、と共同で実施）
 - ・ 関東、関西、福岡、長崎などへの営業強化。
- (2) 関連各団体主催の宣伝事業に派遣
 - ・ 県・県観光連盟
- (3) 修学旅行誘致
 - ① 学校、旅行者への誘致訪問（関東・関西・福岡・長崎）
 - ② 旅行販売担当者と教師等の現地研修旅行の受入強化
- (4) 観光物産展の開催
 - ・ 「五島の観光と物産展実行委員会」と共同で各地での開催。
- (5) マスコミ取材招致事業
 - ・ 長崎県観光連盟や関連団体とタイアップし行う。
- (6) 旅行会社研修招致事業
 - ・ 対象を絞り、内容の濃いものを提案していく。
- (7) 大型レジャー客船や各種大型団体への招致事業
 - ・ ばしふいっくびいなす、飛鳥Ⅱなど。
- (8) リーフレットの製作
 - ・ 平成26年度版を4万部製作。
- (9) ホームページの充実
 - ・ HPにおいては、アクセス件数とメール受信件数の増大を目指す。
- (10) マスコミを有効に活用する
 - ・ プレスリリースを積極的に行う。

2. 観光客受入活動

- (1) 各種大会の主催、後援、協賛
 - ① 第32回こども自然公園大会
 - ② 2014五島長崎国際トライアスロン大会
 - ③ 第28回五島列島夕やけマラソン
 - ④ 島内各地のまつり
 - ⑤ 第30回長崎五島ソーデーマーチ
- (2) 冬期閑散時期の集客事業

- ・第21回五島椿まつり
オープニング、椿盆栽展示、春の茶会、
うんまかもん市場、牡蠣焼き屋台など
- (3) 大型観光団の歓迎行事の実施
 - ・大型客船や修学旅行などの入港入島イベントの企画立案
 - ・韓国旅行団の歓迎セレモニー
- (4) 島内での体験メニューの開発とPR活動
 - ・農林水産業関係者と連携し五島独自の体験プログラムの開発に取り組む。
- (5) 修学旅行受入体制強化

3. 管理運営等の受託事業等

- (1) 観光案内所（福江空港、福江港）の管理・運営
- (2) 福江武家屋敷通りふるさと館の管理・運営
- (3) 五島観光連盟の事務局

4. 協力事業

- (1) 市及び関係機関の実施する島内観光資源の開発及び整備拡充等への協力
- (2) 長崎五島ツーデーマーチの事務局
- (3) 市街地、観光地の美化運動に協力する
クリーン五島（鬼岳清掃）など観光地清掃活動参加
花いっぱい運動への協力。
- (4) 交通体系の整備、拡充、推進への協力
空港利用促進協議会等に参画し、空港、港の整備及び陳情。
定期観光バス等の拡大への協力。
- (5) 地元芸能団体等への支援

5. その他

- (1) 特産品の開発販売
- (2) ふるさとガイドの会の積極的な広報活動支援と運営支援
- (3) 島内各関係機関との連絡調整